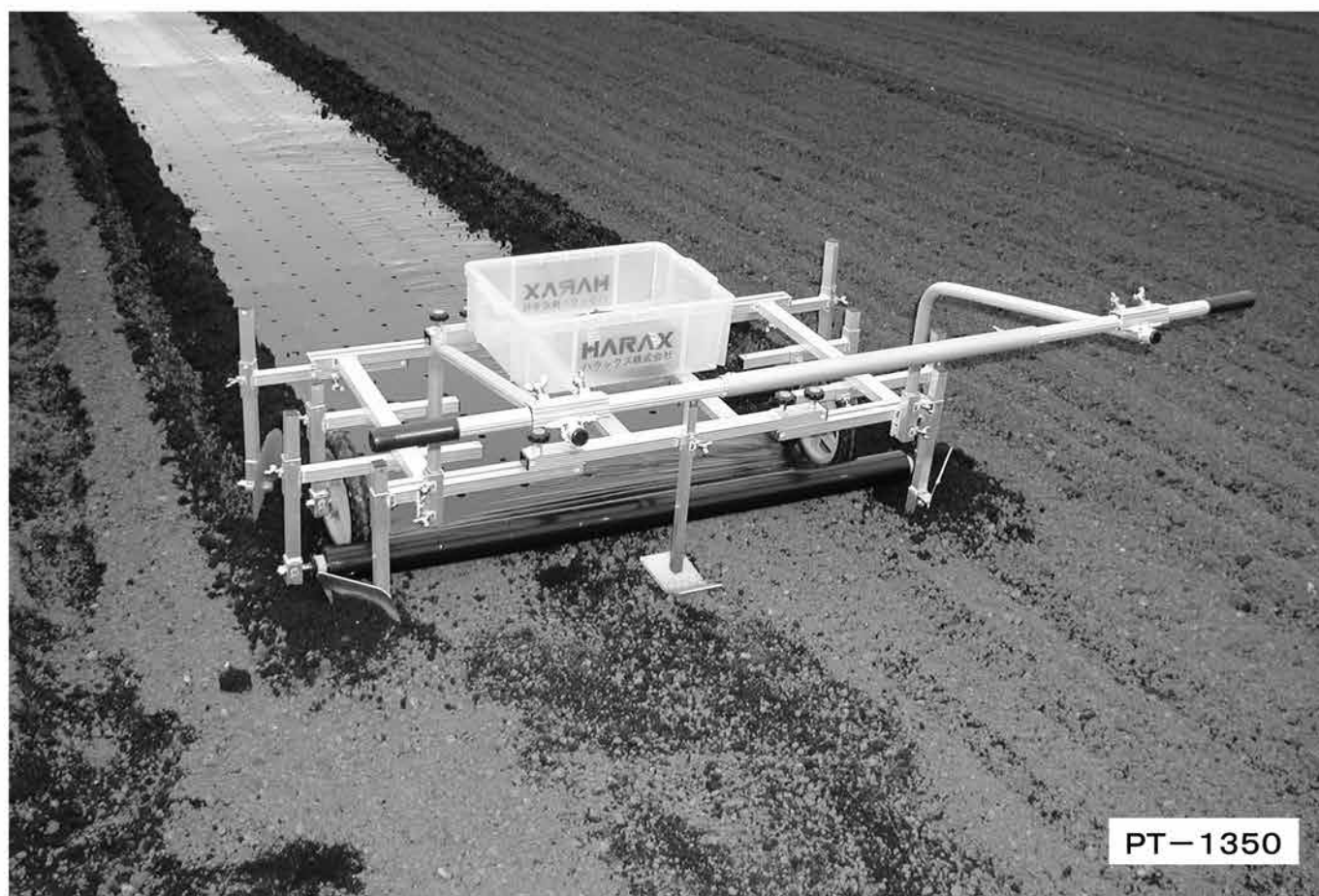
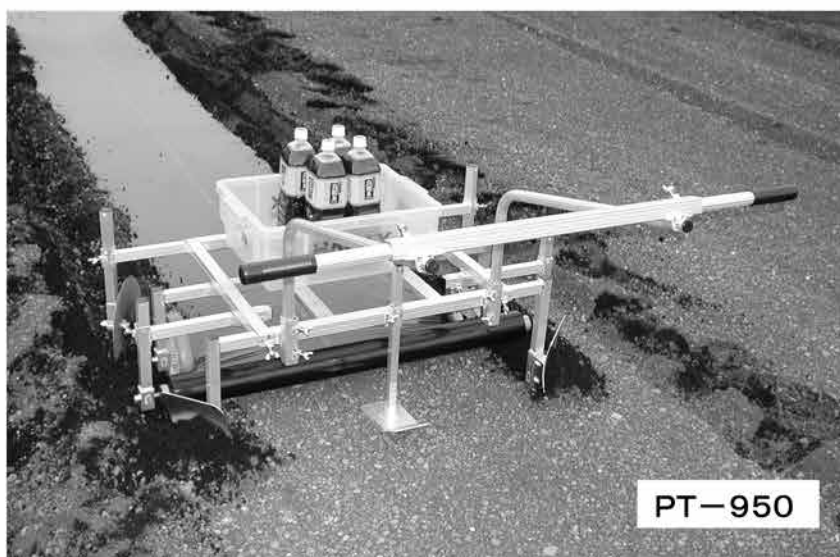


- 本機は人力によるマルチ展張機です。用途以外には使用しないでください。
- この取扱説明書をよく読み理解したうえで、正しく使用してください。
- 本機は全ての土質や気象条件における作業に対応するものではありません。特に覆土に関しては人の手による補修の場面も想定してください。
- PT-1350は巾135cmのマルチが最大巾で、PT-950は95cmが最大巾です。無理に伸ばしたり縮めたり、改造しないでください。
- 使用するマルチに貼付された説明書の条件に沿って準備してください。



目次

- 使用条件……P1
- 各部名称……P2. P3
- 組立方法……P4. P5
- 作業のポイント……P6
- 使用後の手入れと保管方法……P7



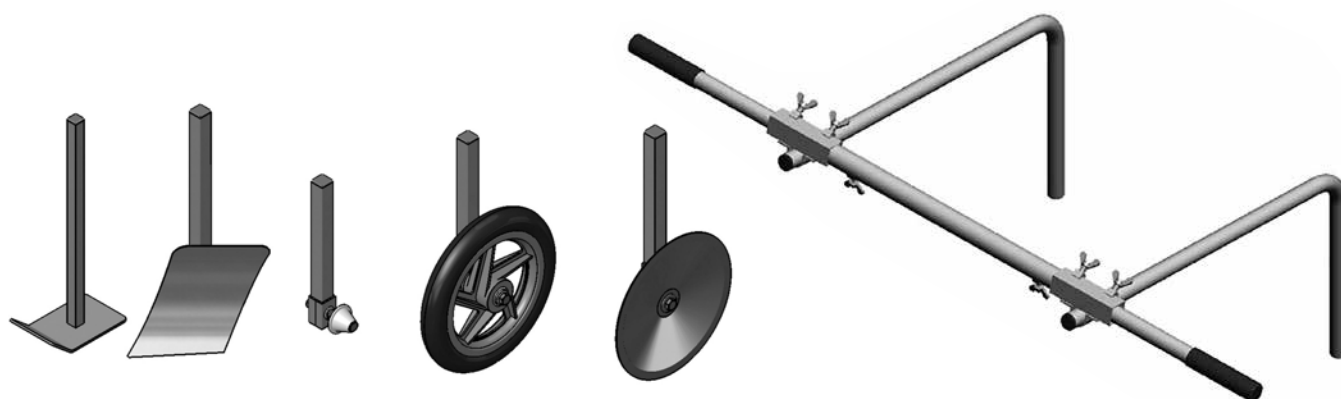
※旧仕様の写真です。

使用条件

- 左右のハンドルを引く速度と高さの保持を、均等に2人で行うことが大きなポイントです。
2人仲良く作業してください。
- 日中の高温時を避け、耕運直後又は、降雨後に作業してください。
- 石などを含む硬い土、粘土質の土、著しく湿った土などの悪条件では手直しを多くして、マルチのハガレを防止してください。
- この製品は主にアルミ合金製です。電気を良く通しますので、運搬中の電線やほ場での落雷に、充分注意が必要です。

各部品の役割

- レベラ・・・作業中の本機の水平(レベル)を一定にするため、また、中心を示す部品です。
レベラが浮かないように、沈まないようにすると高さが一定になります。
- 排土板(ミゾ掘り)・・・先行してミゾを掘る作業を行う部品です。ウエイトによる沈み具合で畝の高さが決まります。
- 紙管ホルダ・・・マルチの巻き芯(紙管)を取り付ける部品です。外側に調圧用のバネがあり、繰り出しの強さ(張りの強弱)も調整します。
- タイヤ・・・機体の走行用よりも、繰り出されたマルチを押し込み、覆土を安定させるための部品です。PT-1350はマルチにシワが寄りにくくするため、内側に向けて、少し角度が付いています。
- 覆土ディスク(土寄せ)・・・本機の最も重要な覆土のための部品です。軸受けには防塵タイプのベアリングを使用し、円滑な回転で作業の抵抗を軽減する設計になっています。沈む深さや、マルチまでの距離により、覆土の量が変わります。
- ハンドル・・・作業者の体格に合わせ、高さや巾が調節できます。出来るだけ低く設定した方が低重心により、作業が安定します。



レベラ

排土板

紙管ホルダ

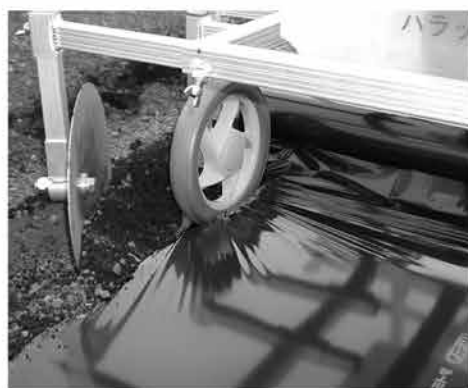
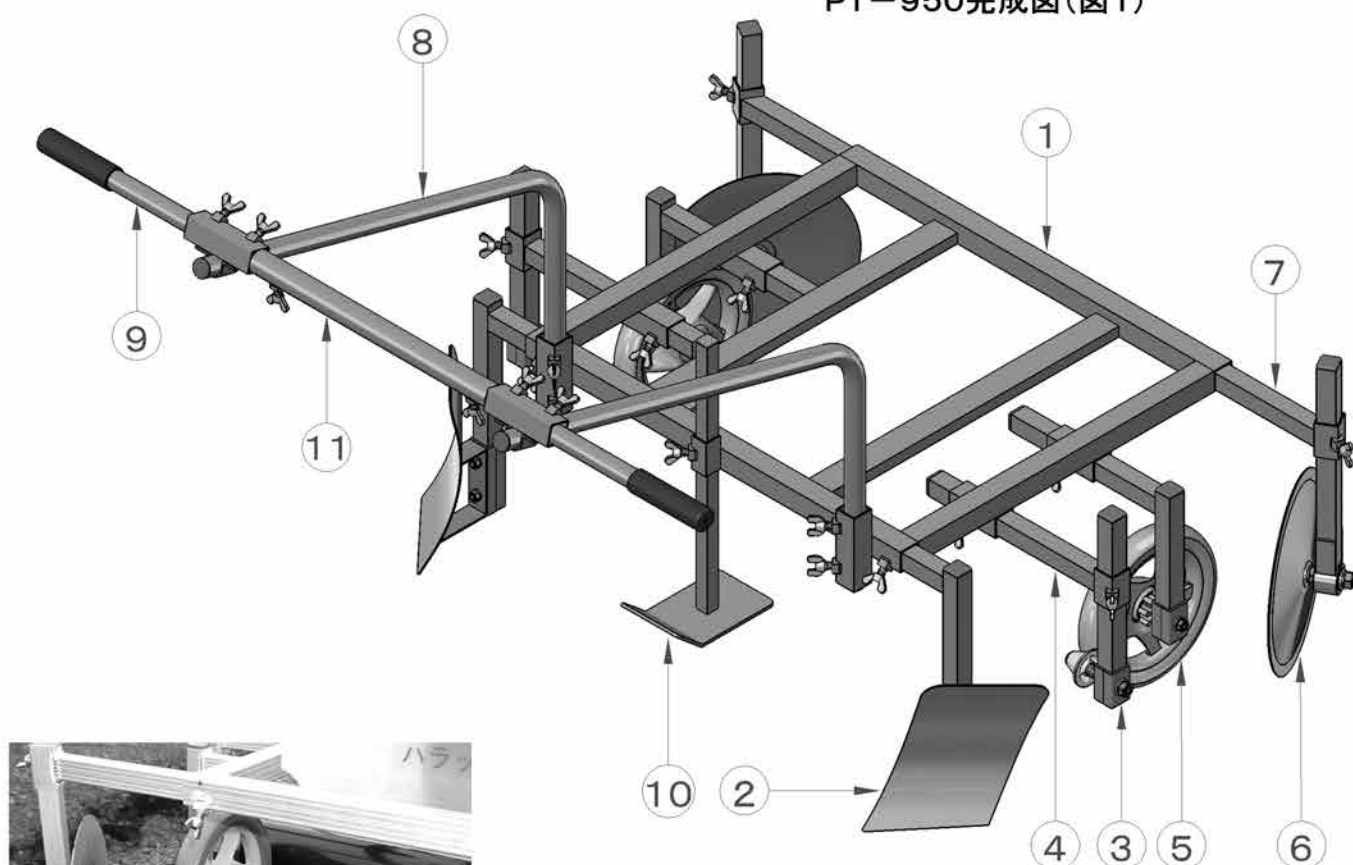
タイヤ(PT-1350)

覆土ディスク

ハンドル(PT-950)

各部名称

PT-950完成図(図1)



※排土板とタイヤの高さは同レベルで固定してあります。

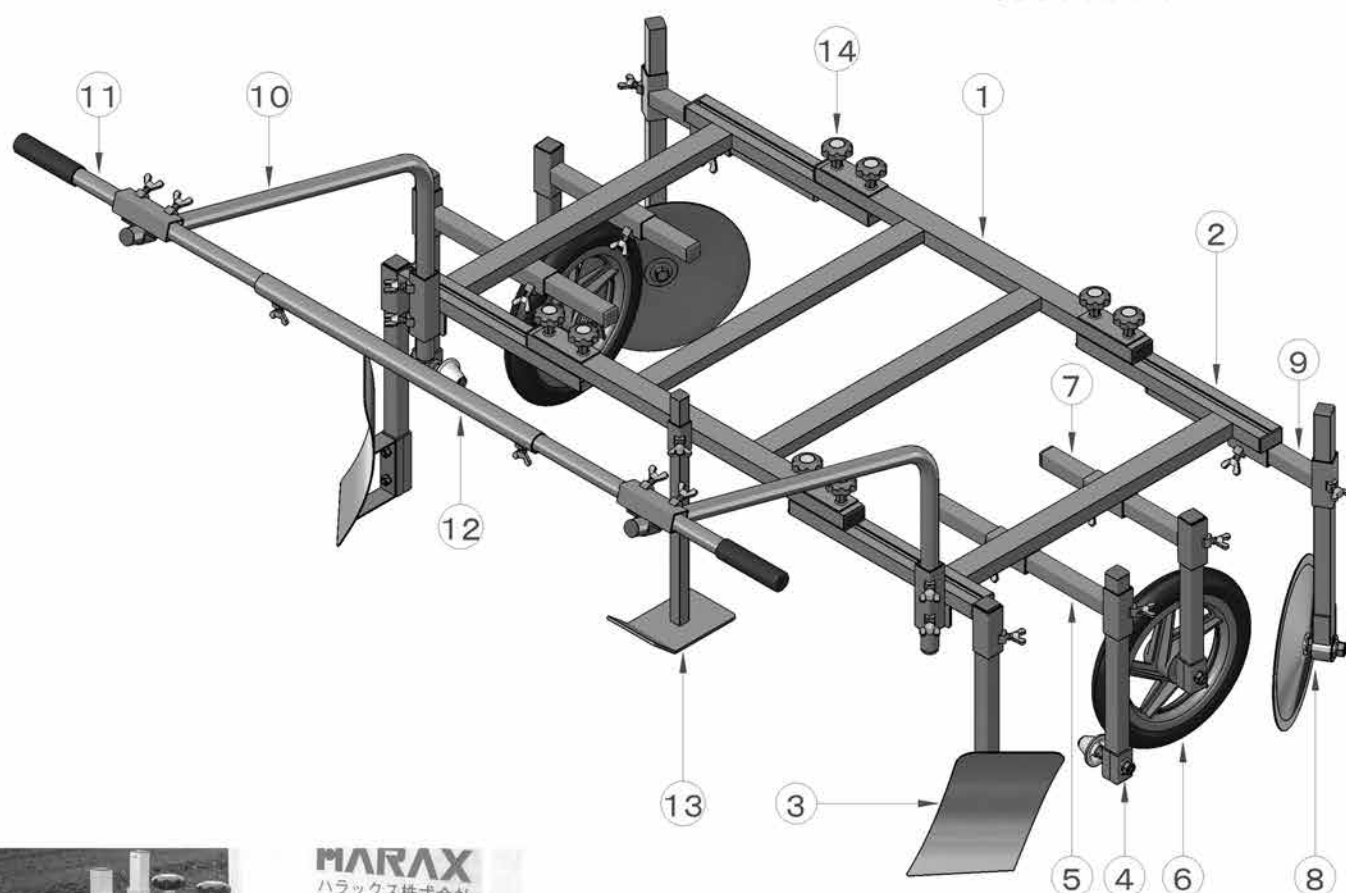
部材一覧表(PT-950)

番号	部品名称	数量
①	本体フレーム	1
②	排土板R/L	各1
③	紙管ホルダ	2
④	マルチフレームR/L	各1
⑤	タイヤフレーム	2
⑥	覆土ディスクフレーム縦	2
⑦	覆土ディスクフレーム横R/L	各1
⑧	ハンドルフレーム	2
⑨	ハンドル	2
⑩	レベラ	1
⑪	ジョイント	1



※旧仕様の写真です。

PT-1350完成図(図2)



※排土板の巾調整はサイドフレームをスライドさせて調節します。135cmのマルチの場合、最大に広げた位置が基準巾となります。

部材一覧表(PT-1350)

番号	部品名称	数量
①	本体フレーム	1
②	サイドフレームR/L	各1
③	排土板R/L	各1
④	紙管ホルダ	2
⑤	マルチフレームR/L	各1
⑥	タイヤフレーム縦	2
⑦	タイヤフレーム横R/L	各1
⑧	覆土ディスクフレーム縦	2
⑨	覆土ディスクフレーム横R/L	各1
⑩	ハンドルフレーム	2
⑪	ハンドル	2
⑫	ジョイント	1
⑬	レベラ	1
⑭	ノブボルト	8



組立方法

- 各部品の入る部分と入れる側は、左右それぞれ正面（ハンドル側）から見える位置に色マークが貼ってあります。（図3）
- PT-1350は135cm巾のマルチを基準に、又PT-950は95cm巾のマルチを基準に巾の参考基準線がありますから、これを元に試運転で調整します。（図3）
PT1350は本体フレームからサイドフレーム左右を最大巾にしてから、各基準線を合わせます。（図4）
- 高さの調整は畝高さに対し、マルチが接する程度の低重心とし、排土板（ミゾ掘り）とタイヤは同じレベルで、覆土ディスク（土寄せ）はタイヤより5cmくらい深く土に入るよう設定します。
左右の部品を色別に所定の位置に図を参照して組み立てます。（図5・6）

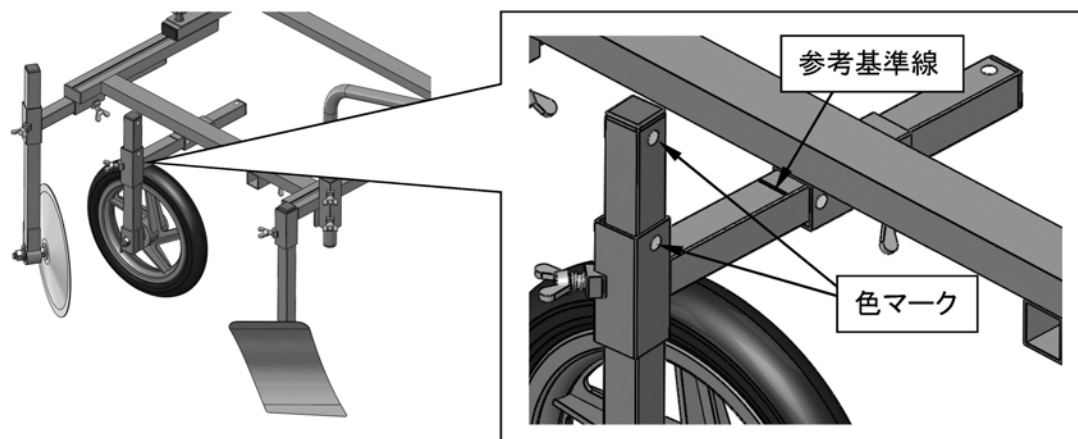


図3

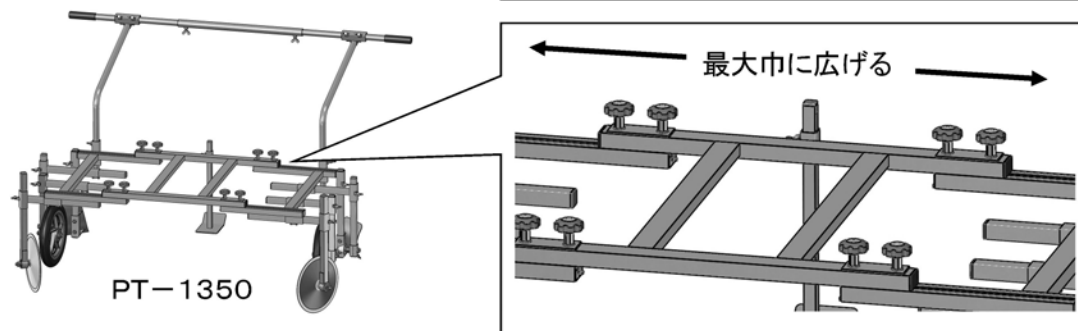


図4

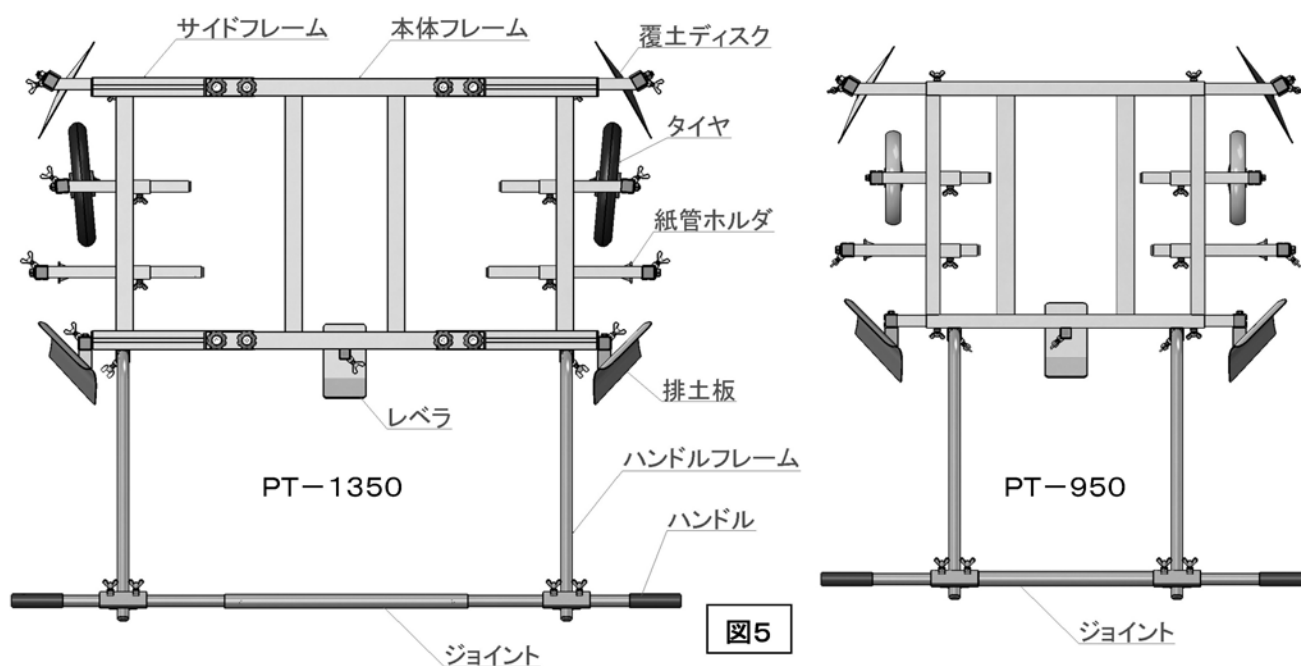


図5

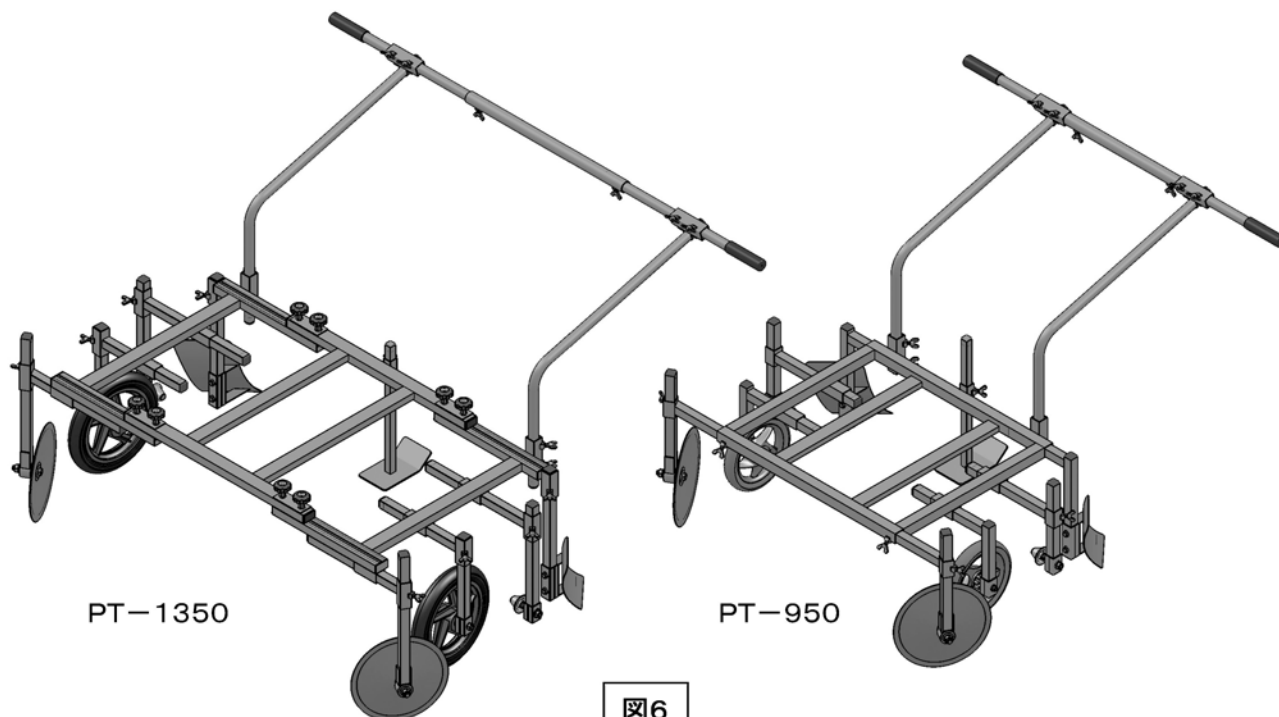
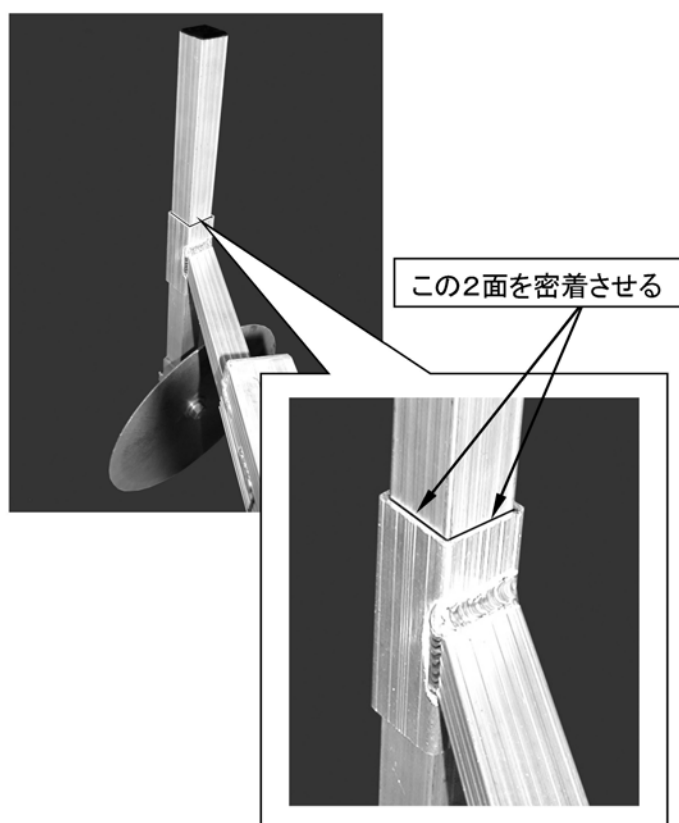
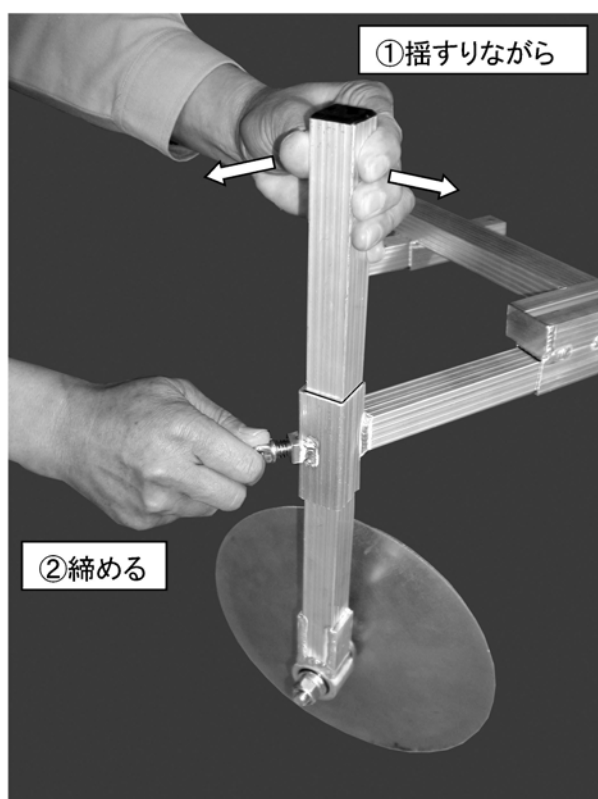


図6

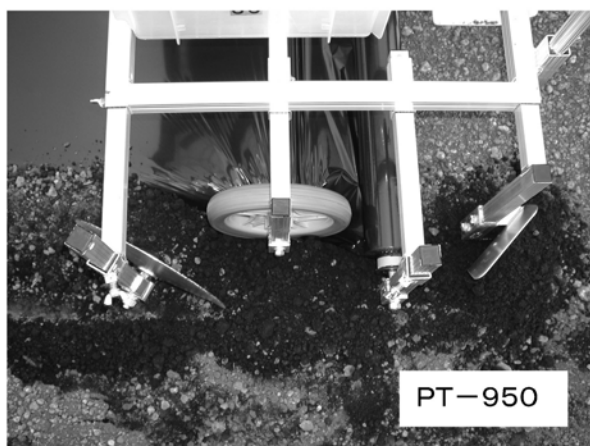
組立のポイント

- 本機のスライド部は、角パイプと角パイプをスライドさせ、平面の1面ではなくカドから対する2面を強固に圧迫し固定する方法です。写真のように、スライドするパイプを前後左右にカタカタと揺すりながらチョウボルトを締め込み、ガタツキ無く押された2面が密着していることを確認してください。
※斜めに押され2面が密着していないと使用中に緩みが生じ、部品の落下や作業条件が変化する場合があります。
※溶接の歪みにより端面にスキマが生じるがありますが、ガタツキが無く締めれば大丈夫です。

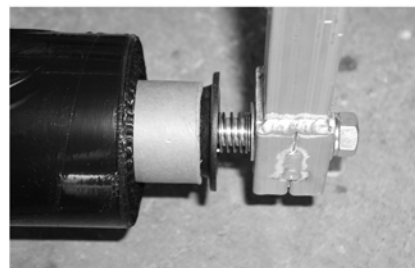


作業のポイント

- 組立後の移動は2人で持ち、ほ場へ運んでください。覆土ディスクで走行すると破損します。
 - 本機は平畝対応ですから一般の高畝では使用できません。
 - 展張するほ場に置き、マルチが下側から繰り出されるようセットし、マルチの端とタイヤまでを覆土してください。進行方向に斜めシワがないよう平行に、また、均等にセットします。
 - 土質によりフレーム上面に6～10kg程度のウエイト(ブロックやペットボトル)を載せます。
(表紙の写真参照) 覆土ディスクとタイヤの浮き防止で、ディスクが浮くと覆土が不十分です。
 - レベラを畝上面に合わせ、浮いたり沈んだりしないよう注意し、左右のハンドルを均等に引きながら進み、展張と覆土を確認します。
- ☆畝を高めにする場合、ウエイトを重くし機体を沈めての作業となり、排土と覆土の抵抗が増します。
また、タイヤがマルチを踏む位置も内寄りになります。
- ☆覆土量が少ない場合、ディスクを深く、また、ディスク位置を内寄りにします。
覆土量が多い場合、ディスクを浅く、また、ディスク位置を外寄りにします。
- ☆マルチからタイヤが外れやすく、しっかり踏み付けない時は少しづつタイヤを内寄りとして調整してください。内側に入り過ぎるとマルチの端が上側にめくり上がり、覆土が浅くなることがあります。

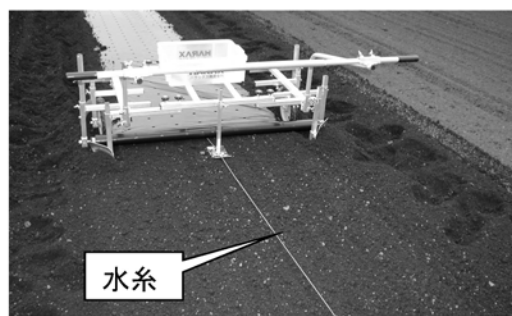


- ☆紙管を押さえるホルダ外側に回転を調整するバネがあります。
強く押すとマルチの繰り出しに抵抗が増えます。
過度の押し込みは展張マルチの長手方向にシワが出る傾向です。また、押し込みが緩いと抵抗無く回り過ぎ、巾方向にシワが出る傾向になります。



☆試運転で良好なセットが完了したら、巾や高さの印を付けておくと次の作業が楽になります。

- 本機に慣れるまでは時々覆土の状態を確認してください。又、直進度を重視する場合は作業前にほ場中心に水系等を張っておき、作業後に回収します。
- 作業が終了したら、風によるハガレ等が発生しないよう確認してください。



使用後の手入れと保管方法

- 汚れをきれいにふき取り、掃除してください。アルミ合金も鉄部品も肥料成分により、サビが発生し易くなります。また、タイヤや覆土ディスクの軸部分の土はよく落とし、ベアリング部分に注油しておきます。排土・覆土の鉄部品にサビが発生すると、作業中に土が付着し易く、大きな抵抗になります。
- 各部を点検し異常が無いことを確認してください。特にアルミ部品の変形は曲げ直すと強度が著しく低下します。自分で修理せず販売店に修理や部品を発注してください。
- 保管場所は直射日光が当たらない、風通しの良い屋内にしてください。雨ざらしは各部品の劣化を進めるため厳禁です。
- フレームの上などに物を置かないでください。タイヤやフレームなどの変形が発生する恐れがあります。



HARAX
ハラックス株式会社

本 社 群馬県渋川市渋川990-1
〒377-0008 ☎ 0279-23-5828
FAX 0279-23-2669